

経済政策論 A

—IS-LM-MP 分析と財政・金融政策—

山田知明

明治大学

2025 年度講義スライド (7)



IS-LM モデル

- IS 曲線：財市場を均衡させる利子率と産出量の関係
 - 右下がり
 - LM 曲線：貨幣市場を均衡させる利子率と産出量の関係
 - 右上がり
 - 2つの市場が同時に均衡する利子率と産出量
 - ある物価水準における利子率と産出量の関係
- [当面の目標を達成!]

[図：IS-LM 曲線]

財政政策の役割：Gを増やす

- 財政の機能
 1. 資源配分機能：公共財の供給など
 2. 所得再分配機能（後ほど）
 3. 安定化機能
- 財政政策の効果
 - 産出量の拡大/利子率の上昇
 - クラウディングアウト (Crowding Out)

[図：IS-LM モデルと財政政策]

財政政策の有効性を巡る議論

- 乗数効果 $\frac{\Delta Y}{\Delta G}$ の実際の大きさ
 - 近年、乗数は低下傾向 (渡辺・藪・伊藤、2010)
 - 消費者の 3/4 は恒常所得仮説に基づいて消費支出 (Watanabe et al. 2001)
 - 非ケインズ効果 (渡辺・伊藤、2004)
- リカードの中立性命題
 - バロー (R. Barro) の等価命題
 - 「経済主体が将来を完全に予見可能であり、利他的に行動をするのであれば、公債は中立的になる」

金融政策の役割

- 金融政策の効果
 - 産出量の拡大/利子率の低下
 - 流動性の罠 (Liquidity Trap) \Leftarrow 日本経済

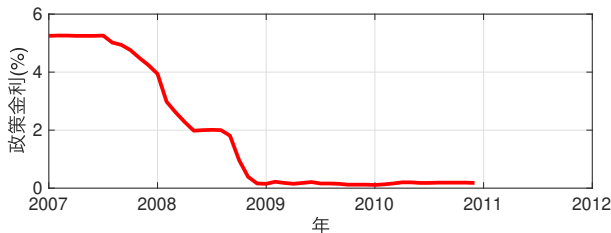
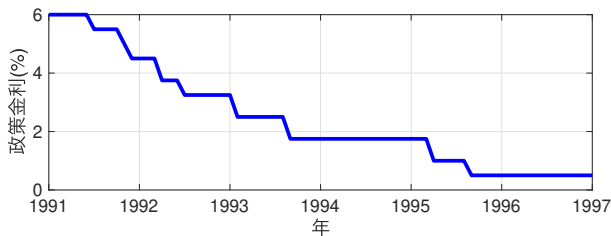
[図：IS-LM モデルと金融政策]

- なぜお金を増やすと景気が回復するのか？
 - ベビーシッターとクーポン券 (P. Krugman) の例を思い出そう！

金融政策 (未知の領域)

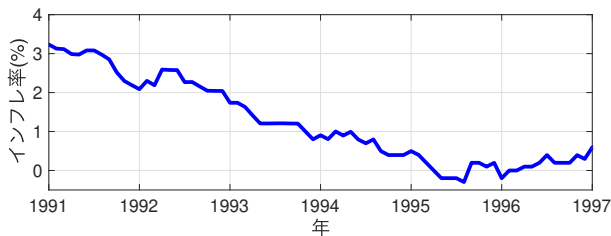
- ゼロ金利政策と期待インフレ
 - 中央銀行は利子率をコントロールしている
 - 名目利子率がゼロになった時の中央銀行の手段?
- 注目を集める過去の日本の対応
 - 量的緩和政策 (Quantitative Easing)
 - インフレ・ターゲットとイールドカーブ・コントロール
 - 異次元の金融緩和
 - 量的・質的金融緩和：黒田総裁時代
 - マネタリーベースを拡大
 - マイナス金利
- 植田和男『ゼロ金利との闘い』日本経済新聞社

日米の政策金利の推移



- 上：日本の政策金利、下：米国の政策金利

消費者物価指数 (食料及び燃料価格を除く)



- 上：日本のインフレ率、下：米国のインフレ率

中央銀行の独立性を巡る議論

- 中央銀行の独立性がなぜ問題になるのか?
 - 中央銀行の国債引き受け ⇒ 禁止
 - 貨幣鑄造益 (Seigniorage)
 - 財政規律
- 中央銀行の独立性を巡る議論
 - 各国の事情によって法的立場、独立性の程度は様々
 - 中央銀行の独立性が低い国の方がインフレ率は高い傾向
 - ただし、実体経済への影響は小さい
by Alesina and Summers (1993, JMCB)

IS-LM モデルの使い方

- ポリシーミックス
 - 財政政策と金融政策は必ずしも独立に行う必要はない
 - 例：増税 + 金融緩和

ナイーブなマクロ経済政策は本当に必要か？

- 有効需要管理政策は歴史的に多くの成功例を作り出してきた
- 「トレンドからの一時的な低下」であれば経済政策による底支えは有効
 - 経済成長率が低下した場合には構造改革などが必要
- 政府の不正・腐敗 (vs ハーヴェイロードの前提)
 - 消費者や企業は自身の利益を最大にする
 - 官僚もまた自身の利益を最大化する
- 期待やダイナミクスを考える必要性
 - 予見された危機と予見されなかった危機